作成番号:0201

==========

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

==========

号数:2024-201

****

内容:蕁麻疹患者の診断後 1 年間でがん罹患リスクが 49%増加する

出典:Urticaria and the risk of cancer: a Danish population-based cohort study.

The British journal of dermatology. 2024 Jun 27; pii: ljae264.

https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38924752/

****

デンマーク・オーフス大学病院の研究者らは、蕁麻疹患者のがん罹患リスクと一般集団のリスクを比較した。その研究成果は、British Journal of Dermatology 誌オンライン版 2024 年 6 月 27 日号に掲載された。

1980～2022 年に初診で蕁麻疹と診断された 87,507 例(女性が 58%)を対象に、追跡期間中央値は 10.1 年だった。観察群 7,788 例と対照群 7,161 例に基づいた、全がん種の標準化罹患比(SIR)は 1.09(95%CI:1.06～1.11)で、追跡開始後 1 年間のがんリスクは 0.7%(95%CI:0.6～0.7)であった。追跡開始後 1 年間で蕁麻疹既往歴のある 588 例ががんと診断され、全がん種における SIR は 1.49(95%CI:1.38～1.62)だった。1 年目以降、全がん種の SIR は減少し、7,200 例のがん症例が観察された 1.06(95%CI:1.04～1.09)時点で安定した。血液がん、とくに非ホジキンリンパ腫(SIR:2.91、95%CI:1.92～4.23)、ホジキンリンパ腫(SIR:5.35、95%CI:2.56～9.85)のリスクが高かった。

蕁麻疹診断時または診断後 1 年目に、がん罹患リスクが大きく上昇し、1 年を超えた後も 6%のリスク上昇が持続した。潜伏しているがんが蕁麻疹を促進する、あるいはがんと蕁麻疹が共通の危険因子を有している可能性がある。